



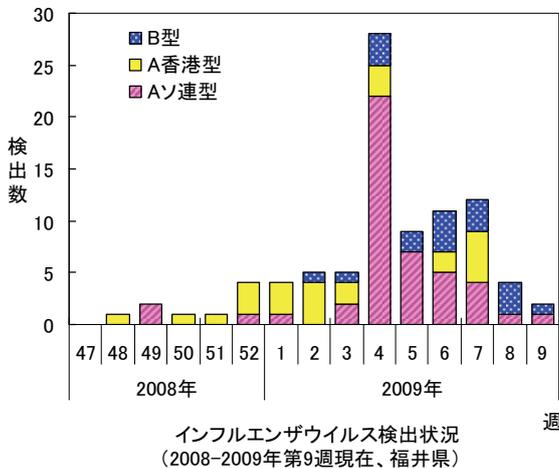


### 今年は何のインフルエンザ?

冬季の“風邪”の代表選手は“インフルエンザ”です。“風邪”とはいっても、症状の重さといい、感染の拡がり方といい、普通の風邪とは別格ですね。

インフルエンザの原因となるインフルエンザウイルスにはAソ連型、A香港型、B型などがあり、どの型が流行するかは年によって違います。また、このウイルスは非常に変異しやすいので、同じ型であってもその性質は様々です。当センターでは、県内に流行しているインフルエンザウイルスについて、その種類や性質を詳しく解析しています。

近年では1シーズンにひとつの型だけが流行することは少なく、複数の型が流行する傾向にあります。その場合、A型の流行(1月～2月)のあとにB型の流行(3月)があることが多いのですが、今シーズン(2008年冬から2009年にかけて)はAソ連型、A香港型、B型がほぼ同時に流行しています。一度インフルエンザにかかっても、同じシーズンに違う型にもう一度かかることもあります。



インフルエンザウイルスの検査

### インフルエンザだけじゃない!!

風邪のような症状は様々なウイルスや細菌によって起こります。当センターでは、現在この中でRSウイルスとヒトメタニューモウイルスについて、県内の流行状況を調査しています。

RSウイルスは11月～12月に流行する乳児がかかりやすいウイルスですが、これまでの調査で保育園だけでなく高齢者施設でも患者が発生することや夏にも患者がいることがわかってきました。また、あまり聞きなれないヒトメタニューモウイルスも県内で検出されていて、施設での集団発生もありました。高齢者や基礎疾患がある人が感染すると重症になることもあるので、注意が必要です。

### 感染しない、させないために・・・

インフルエンザはくしゃみなどの飛沫を直接吸い込んだり、空気中に漂ったウイルスを吸い込むことで感染が拡がります。月並みですがうがい、手洗いなどを念入りに行いましょう。教室などでは時々窓を開け、空気を入れ換えるとよいでしょう。ワクチン接種も有効です。(ワクチンにはAソ連型、A香港型、B型の3つの型のウイルスが含まれています。)かかってしまった場合は、早めに医療機関を受診し、人にうつさないために、できるだけ人ごみを避けマスクをしましょう。

他のウイルスによる風邪も予防はインフルエンザとほぼ同じですが、RSウイルスはウイルスがついた物にさわってうつることもあるので、タオルなどの共用はやめましょう。

(文責：中村雅子)



福井県感染症情報ホームページ (<http://kansen.erc.pref.fukui.jp/>) では、県内に流行する感染症の情報を発信しています。このなかで、インフルエンザに関しても患者さんの発生状況や集団発生の状況、ウイルスの検査結果などを随時お知らせしています。

インフルエンザの流行の様子は地域によって異なっているので、身近な情報としてこのホームページをぜひご活用ください。

### 廃棄物最終処分場が必要なのは分かっているけれど・・・

最近、循環型社会という言葉をよく耳にしますが、価値のある物や資源を回収して再利用することにより、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷をできるだけ低減させる社会をいいます。つまり、家庭などから出されたごみや事業活動で生じた産業廃棄物は、再利用や再資源化が可能なものを回収してから、最終的に不要なものだけを廃棄物最終処分場で埋め立て処分することとされています。

ところが、近年ではこの廃棄物最終処分場が不足してきているばかりか、新たな建設も簡単ではありません。理由は様々ありますが、いわゆる迷惑施設だからです。「必要なのは分かっているが、自宅の近くには無い方がいい・・・」と考えるのは当然かもしれません。

### 廃棄物最終処分場の安定化とは

廃棄物最終処分場が嫌われる理由の一つに、未来永劫いつまでも、そのまま汚れた廃棄物が残ると誤解されていることがあります。確かに、管理型最終処分場という施設では、比較的汚れた廃棄物が埋め立てられるため、埋立地内部の汚水を水処理施設で浄化処理する必要があります。さらに有機物（腐敗するもの）があると、微生物の働きにより分解され、メタンや二酸化炭素などのガスが発生します。

しかしながら、汚水やガスはいつまでも発生し続けるわけではありません。時間の経過とともに、有機物は分解され、汚れは水に溶けて水処理施設で浄化され処分場の外へと排出されます。そして最後に、埋立地内部の汚れは少なくなるのです。これを最終処分場の安定化といいます。

### 安定化を見極めて、跡地を有効活用する

安定化が進むと、最終処分場の上部（跡地）は公園や工場用地などに有効利用が可能になります。実際に他県では、運動場や学校敷地などに活用している事例があります。つまり、適正な管理を行い処分場の安定化状況を把握し、安定化が早くなるように工夫することは、近隣住民の不安を早期に解消するだけでなく、迷惑施設を喜ばれる施設に変えるために重要です。

### 福井の気候を生かした安定化促進を考える

ところで、福井県の気候は年間を通じて降水量が多く、冬には積雪があるなど、全国的に特異的です。

そこで、当センターでは福井県の気候特性に適した安定化促進技術の開発を目指して、県内の最終処分場を対象に、比抵抗探査や地表ガス噴出箇所調査など最新の手法を用いた安定化の調査研究を行っています。

また、最近では、その安定化の目安となる汚水中の金属類を正確かつ迅速に測定できる装置として、ICP-MS分析装置を導入しました。（文責 田中宏和）



最近導入した ICP-MS 分析装置



比抵抗探査（黄色のライン）と地表ガス噴出箇所調査

## 海外技術研修員の受け入れ

福井県と中国浙江省との間では、毎年、技術研修員の交流を行っています。

本年度、当センターは技術研修員として林 兆豊（リン・ツァオフエン）さんを受け入れ、10月から3月までの6ヶ月間、環境保全分野を中心とした研修を行いました。研修内容は大気や水質、化学物質、保健衛生など多岐にわたり、林さんは熱心に技術の習得に努めると同時に、職員との交流を深めました。



写真左：林兆豊さん

## 衛生・環境技術研修会を開催

当センターで実施している各種試験検査に関する最近の動向および先進情報に触れることで、職員および県下の他の研究者の試験検査技術の向上と意欲高揚を図るため、毎年、全国的レベルの先進研究者による講演を開催しています。

本年度は質量分析の現状と課題と題して3月3日（火）に、福井大学教育地域科学部教授 伊佐 公男 氏による講演と、当センターでの分析に関連する研究発表を行いました。

当日は当センターの職員のほかに、健康福祉センターや市町の職員、民間検査機関の研究者が参加し、熱心に耳を傾けていました。



## 食品衛生講習会を開催

当センターでは、健康福祉センターへ食品営業許可更新手続きに来られる方を対象にした講習会にあわせ、食品分野での調査研究成果の説明を行っています。

今年度は、5月から3月の間に計9回、市販鶏肉からサルモネラや多剤耐性大腸菌が高率に分離されている現状について説明を行い、食品衛生への啓発に努めました。



当センターでは、下記ホームページにて調査研究内容や所報などの刊行物を公表しています。

編集発行 福井県衛生環境研究センター 〒910-8551 福井市原目町 39-4  
電話：(0776)54-5630 FAX：(0776)54-6739 E-mail：eiken@pref.fukui.lg.jp  
ホームページ <http://www.erc.pref.fukui.jp/center/>  
みなさんのご意見、ご質問をお待ちしています。 (09.03.16170)

### 編集後記

今年もスギ花粉の時期になり、つらい日々が続きます。花粉症の方は当センターのホームページを活用ください。